

れきしみち

2024.4
No.132



P2 特集

企画展
安城の今昔5



職人の仕事道具

- P4… 收藏品紹介「侍従長藤田尚徳と安城」
- P6… 連載「安城歴史散策 風を感じて歴史を歩く18」
- P7… 企画展関連イベント/春の催し物案内
- P8… さと会員募集/市民ギャラリーよりお知らせ



れきしみち No.132 令和6年4月発行 編集・発行 安城市歴史博物館

(指定管理者：安祥文化のさと地域運営共同体)

安城市歴史博物館 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地 TEL 0566-77-6655

令和6年度

安祥文化のさと会員

大募集!

「さと会員」は、安祥文化のさとを楽しむための「ファンクラブ」のようなものです。展覧会をお得に何度も観たい。どんな催しがあるか知りたい。歴史やアートをもっと身近に感じたい。などなど…「さと会員」になって、安祥文化のさとをまるごと楽しんでみませんか。



さと会員の
特典はスゴイ!



特典

- 1 情報誌「れきしみち」を年4回お届け!
- 2 歴史博物館の有料展示観覧料が2割引!
- 3 歴史博物館の常設展観覧料が年間通じて無料!
- 4 併設喫茶店のお食事・ドリンク500円割引!
- 5 会員限定「さとスタンプラリー」にチャレンジスタンプ数に応じた景品をプレゼント!

入会について
会費:600円

[入会受付] 令和6年4月2日(火)～
[支払方法] 歴史博物館受付かお振込みの2通り。詳細はお問合せください。

安城市民ギャラリーよりお知らせ



懐かしの“車”写作品展

「懐かしの“車”写生大会」の作品を展示します。
(写生大会は4月14日(日)に行います。)

[開催期間] 令和6年4月20日(土)～5月12日(日)
[休館日] 月曜日 ※4/29、5/6は開館
[時間] 9:00～17:00(最終日は16:00まで)
[会場] 市民ギャラリー-展示室 E
[観覧料] 観覧無料

市民ギャラリー特別展
「やきものの秘密 どうやってできるの?この色・かたち
～愛知県陶磁美術館コレクションより～」

日本屈指のやきもの専門ミュージアムである、愛知県陶磁美術館の所蔵品が安城市へやってきます!

[開催期間] 令和6年6月21日(金)～7月20日(土)
[休館日] 月曜日 ※7/15は開館
[観覧料] 200円 ※中学生以下無料
[時間] 9:00～17:00
[会場] 市民ギャラリー-展示室 B・C



テークー名古屋人形製陶ノベルティ「マドモアゼル」
愛知県陶磁美術館蔵

安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

[全館共通事項]

住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / 9:00～21:00
TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

安城市歴史博物館

URL / <https://ansyobunka.jp/>



はたらく道具たち

職人の仕事道具

令和6年
4/13土
→6/30日

休館日
毎週月曜日
※4月29日・5月6日は開館
開館時間
9:00~17:00
(入館は16:30まで)

観覧無料

ひと昔前までは、職人たちはわたしたちの生活と、切り離せない存在でした。民家などの建物や農具など生業のための道具、日常生活に欠かせない生活道具に至るまで、その多くは職人たちの手で作られ、修理され、大切に使われてきたものです。

本展では大工や鍛冶屋、桶屋など人々のくらしの身近にいた職人から、安城の地場産業であるそうめんや花火の職人まで、さまざまな職人の仕事と道具を紹介します。

第一章 職人の仕事と道具

昔の民家は、設計や建築は大工、扉など建具の製作は建具屋など、様々な職人の手によって造られていました。

大工は木材を加工し、建物を組み上げる職人です。大工の意味は時代によって異なり、現在のような木造建築の職人を意味するようになったのは近世以降です。また民家を建てるのは家大工、船を作るのは船大工、寺社を建てるのは宮大工というように、携わる仕事内容によって細かく分かれることもありました。

昭和十八年(一九四三)に労働科学研究所が行った調査によると、大工道具はどんなに安普請

また漁で使われる筥を作るのは筥職人の仕事でした。筥は竹を細く割って編み、円筒・円錐形にした漁具のことです。竹は丈夫で弾力性もあるため、様々な大きさの筥を作ることができました。筥職人の道具は竹鋸や竹鉦など、竹を加工する工程で使われるものが中心なので、他の職人に比べて道具の数は多くありません。しかし竹を籐状に編むための編み台や道具箱など、必要なものがあれば手作りして用意することもありました。



筥



竹鉦(筥職人)

第二章 生活道具と職人

今では工場で大量に生産される身の回りの日用品も、昔は職人が作ったものを買ひ、壊れたら繰り返し修理をして手入れしながら使うものでした。

手桶や風呂桶、飯櫃など、生活のあちこちで使われていた桶は、桶屋が作るものでした。桶(結桶)は木材を短冊状に加工した樽を削り出し、円筒形に並べ、竹の箍で締め作り。衝撃に強く丈夫なうえ、樽の大きさを変えれば小

でも七三点、必要十分な道具を揃えると一七九点もの道具が必要とされます。なかでも鉋や鑿、錐など部材を削ぐ・接合するといった加工のための道具は特にたくさん種類が揃えられていました。当館所蔵の資料でも、全てが揃っている訳ではありませんが、鉋や鑿が多く収蔵されています。さらに墨壺や定規、曲尺など設計・製図のための道具も、大工の重要な仕事道具でした。仕事現場が毎回変わるため、大工はこれらの道具を道具箱に納め、持ち運びができるようにしていました。

戸や障子、襖などの建具を製作するのは建具屋の仕事です。建具屋も木材を扱うため、大工と同じ道具も使用しますが、中でも建具屋の道具は木材を細かく加工ができるものが多くみられます。例えば鴨居などの細い溝をきれいに彫り出すには、削り出し用の鉋、側面を仕上げる鉋、



鉋(建具屋)



機械式鉋(建具屋)

小さな桶から大きな桶まで作ることができました。樽を曲線に削り出すため、桶の内側には外丸鉋や内鉋、外側には内丸鉋や外鉋と、作りたい桶の大きさや半径に合わせた道具を使用しました。

また他にも、オーダーメイドのはきものを作る靴屋は靴の木型や革用のナイフを、和菓子屋は菓子木型や菓子に押す焼印など、職人たちはさまざまな道具を所持していました。



外丸鉋(桶屋)



内丸鉋(桶屋)



鉋(桶屋)

第三章 安城市内の地場産業と職人

安城ならではの職人の仕事と道具の中には、現在でも活躍しているものがあります。

和泉そうめんは天明年間(一七八一〜一七八九)の頃に、手延べそうめんの製造法が和泉村(市内和泉町)に伝えられたのが始まりと言われています。和泉そうめんは塩水を加えながらこねた小麦粉を徐々に引き伸ばし、最後は一丈(約三・六メートル)ほどの長さにまで手早く伸ばして作られます。その中で使われている、麺を休めて熟成

底面を仕上げる鉋など、数種類の鉋を使い分けます。また削る位置を合わせられる定規のついたものや、削る幅を変えられるもの、ネジがついた機械式のものまで、加工したいものに合わせた道具を揃えていました。

このほか屋根葺きを行う屋根屋、土壁を仕上げる左官、また部材を伐り出す杣などの職人たちが、それぞれの仕事に適した道具をもって建築に携わっていました。

職人たちの道具の中には、鍛冶屋の手で作られるものもあります。鍛冶屋は金属を鍛えて道具を作る職人です。特に鋤や鍬などの農具を作る野鍛冶は、人々の生活になくてはならない存在でした。鍛冶屋の作業場には、金属を熱する炉である火床があります。火床を高温にするためには、送風装置である吹子が欠かせませんでした。十分熱した金属を金床の上で叩いて、作りたい道具の形に整えます。このような鍛冶屋の仕事は新品の製作だけでなく修理の仕事も多くありました。特に農具の修理は需要が多く、鍛冶屋の重要な仕事でした。



吹子(鍛冶屋)

させる製麺箱、手作業でそうめんを伸ばすための製麺竹や干し板など、昔ながらの道具は今も活躍しています。

また三河は花火が盛んな地域として知られています。花火の製造技術は各流派に分かれ、文政から嘉永年間(二八一八〜一八五八)にかけて安城市内の各村にも技術が伝わっています。各村で行われた花火は豊作を願い、また娯楽の一つとして、村人自身が花火を作って打ち上げるものでした。節を抜いた竹に火薬を詰めた手筒花火や、黒色火薬で作られた火薬玉(星)を玉皮につめた打ち上げ花火など、さまざまな花火が作られました。これら花火の製作には、火薬を調合する薬研、大小様々な木型やそれに合わせて作られる玉皮などの道具が使われています。現在でも、他の地域よりも花火が身近な存在だったためか、安城市内では花火(煙火)の工場が複数操業を続けており、この地域の地場産業を担っています。



花火玉皮、木型(花火師)



薬研(花火師)

本展では、市域で活躍していた職人たちが使用していた道具をご紹介します。多くのはたらく道具たちを通して、ぜひその仕事の一部をご覧ください。

(文責：千田佑香)

収蔵品
紹介

侍従長藤田尚徳と安城

昭和天皇の侍従長を務め、後に安城に居住した藤田尚徳の手紙が二通、当館に所蔵されています。手紙は昭和二十一年（一九四六）のはじめ、当時安城町長だった岡田菊次郎に宛てたものでした。ここでは藤田の二通の手紙と安城との関係について紹介します。

昭和二十年八月十五日、日本はポツダム宣言を受諾し、敗戦となりました。当日正午からはラジオにおいて玉音放送が流れました。多くの国民は、この時初めて天皇の声を聞いたと思われまます。十五日正午に放送されることは事前に伝えられていましたが、玉音放送は前日に録音された録音盤（レコード）によるものでした。



昭和12年頃の藤田尚徳
(本館蔵「海軍将官集合写真」より)

皇の側近に仕えて事務をつかさどる侍従職の長官です。明治十三年（一八八〇）

敗戦を迎えた天皇の傍に侍従長として仕えていたのは藤田尚徳でした。侍従長とは天

に生まれた藤田は、海軍兵学校を卒業し、日露戦争に従軍しました。大正五年（一九一六）八月には、英国大使館付補佐官になります。後に戦艦艦長を歴任し、昭和十一年に海軍大将、昭和十九年八月に侍従長に就任しました。当時侍従長は、伯爵や元内大臣、軍の元将校が務めており、藤田の前も元海軍大将がその職にあたっていました。

藤田は敗戦色の濃い一番苦しい時に侍従長となり、天皇の傍に仕え終戦に尽力しました。昭和二十年九月末に行われた天皇とマッカーサーの会見の際にも事前にマッカーサーと面会し、当日も天皇に従いました。

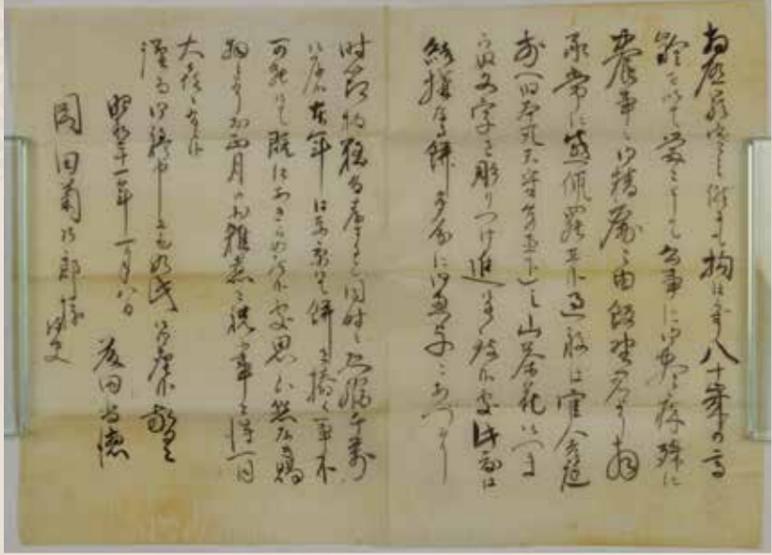
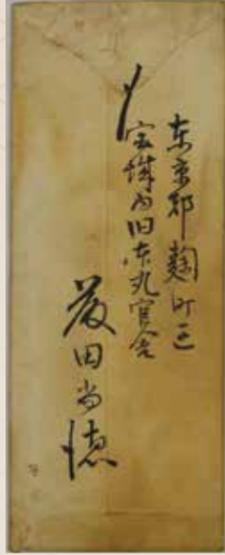
昭和二十一年の年明け、天皇に従事する藤田から安城町長の岡田菊次郎宛に通の礼状が届きます。「本年は東京にて餅を搗（搗）く事不可能にて既にあきらめ居候処、思ひ懸なき賜物となり、お正月のお雑煮を祝ふ事を得、一同大喜二有候」とあり、岡田から餅を贈られたことにより雑煮を祝うことができたことと喜びの内容でした。またその一月後、上京した岡田は色々な品を藤田へ届けました。この時も礼状が藤田から送られました。これらが当館に残

された藤田による二通の手紙です。

同年五月十一日、岡田は宮中において天皇の拝謁を仰せつかったとされます（『岡田菊次郎伝』）。その際、宮内大臣松平慶民や元宮内大臣石渡莊太郎と共に、藤田は元侍従長として岡田を祝して折帖（折本）に揮毫しています。昭和二十一年一月、公職追放令が出され、藤田は五月に侍従長を退職してしました。そして翌六月、藤田は安城町（今の安城市）へ移り住みました。

安城へ来た詳しい理由はわかりません。藤田の父親は津軽藩士でしたが、本人は東京出身でした。東京の家は空襲で焼け、侍従長の時は長男夫婦と官舎住まいでした。伝えられている話では当時の宮内省に出入りしていた人物とその知り合いだった安城町長の岡田菊次郎を通して安城へ来たといわれています。一通目の手紙にも岡田について、「八十歳の高齢を以て営々として」公務に全力を尽くし、特に農事に励んでいる事を聞き感心していると記しています。

藤田が侍従長を退職した同年の十月、藤田との約束として天皇の巡幸の一つに安城が



昭和21年1月 岡田菊次郎宛藤田書状

選ばれます。明治用水の視察に際して藤田は岡田と共に従事しました。宿泊場所は今の安城市総合運動公園にあった愛知県青年師範学校とされました。岡田により建物の修築が行われました。この巡幸の時に藤田は天皇より時計を下賜されました（『侍従長の回想』）。

その後藤田は亡くなるまでの二四年間安城で過ごしました。安城で世話になった人たちや安城に住む元海軍出身の人たちと交流を持ち、周辺の頌徳碑や記念碑、太平洋戦争で亡くなった軍人の墓碑銘の揮毫を引き受けました。古井町にある薬師堂の扁額も藤田が揮毫したものです。また岡田の米寿記念に発刊された『岡田菊次郎伝』の表紙題字は、藤田によって書かれたものでした。

市内新田町の墓地には太平洋戦争の戦死者の墓がまとまってあります。その中で墓碑銘を揮毫した藤田の名前をいくつかみる事ができます。今の地に移る前の新田町の墓地には一二坪からなる玉垣が設えた墓がありました。日露戦争で戦死した軍医の墓です。この軍医は藤田と年齢も近く日露戦争では海軍の軍艦に乗っていました。その墓碑銘を揮毫したのは藤田が尊敬する元帥海軍大将東郷平八郎でした。昭和初期までこの墓の軍医を始めとする日清・日露の戦死者に対して安城町では慰霊祭がおこなわれていました。このことを藤田が自分で知り得たかは不明ですが、藤田の揮毫の墓碑銘がこの墓地にいくつかあるのは単に偶然ではないと思われまます。ただ現在、そ

の軍医の墓に当時の面影はなく、墓石のみの無縁墓に変わり果ててしまいました。

昭和四十五年七月二十三日、藤田は八九歳で亡くなりました。葬儀は翌八月二十三日、岡田菊次郎が建立した市内大東町の太平寺でおこなわれました（『広報あんじょう』八月二十日号「葬儀案内」）。導師は知立市の遍照院から呼ばれたそうです。葬儀委員長は中央精機を立ち上げた石原勝一でした。多くの市民が参列したといわれています。また昭和天皇・皇后から香典にあたる祭料や菓子・果物が下賜されました。（文責…水谷令子）



昭和21年10月 明治用水視察の写真(本館蔵)

企画展関連イベント

5/18 ⑩14:00~ 当日受付

記念講演会「江戸時代の職人を読み解く」

[講師] 篠宮雄二氏(中部大学人文学部歴史地理学科教授)
[定員] 60名

6/1 ⑩14:00~ 当日受付

歴博講座「安城の職人と仕事道具」

[講師] 千田佑香(本館学芸員)
[定員] 60名

4/21 ⑩10:00~受付 6/15 ⑩10:00~受付 展示解説 先着15名(※当日先着順)

4/20 ⑩10:00~12:00

ミニ鯉のぼり染め体験

[講師] 渡辺健一郎氏・古川智氏
(ワタナベ鯉のぼり株式会社)
[定員] 20名(事前申込み先着順)
[参加費] 3,000円(材料費)
[申込] 4月7日(日)9:00~電話受付



6/8 ⑩10:00~11:30

豆たたみづくり体験

[講師] 榎原豊大郎氏・榎原玄大氏
(榎原タタミ店)
[定員] 15名(事前申込み先着順)
[参加費] 1,000円(材料費)
[申込] 5月18日(土)9:00~電話受付



4/13 ⑨~6/30 ⑩ はたらく道具たちクイズラリー「職人の技に挑戦!」
[参加費] 無料

※定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合があります。最新情報はHPにてご確認ください。

申込み・問合せ 歴史博物館 TEL:0566-77-6655

春の催し物案内



懐かしの“車”写生大会

4/14 ⑩ 当日受付 雨天中止

10:00~15:00(受付10:00~14:30)

[会場] 安祥城址公園
[対象] どなたでも(※小学生低学年は保護者同伴)
[持ち物] 水彩絵の具、クレヨン等の画材、画板、目玉クリップ(画用紙は会場配布)

参加いただいた方の作品は
安城市民ギャラリーで展示いたします



鎧の試着会

5/3 ⑩(祝)~5/5 ⑩(祝)

10:00~15:00

[定員] 1日15組まで ※先着順
(1組最大5人までの試着可能)
[場所] 歴史博物館エントランスホール
[申込] 4月13日(土)午前9時より電話にて
歴史博物館へ申込み



さとのマルシェ

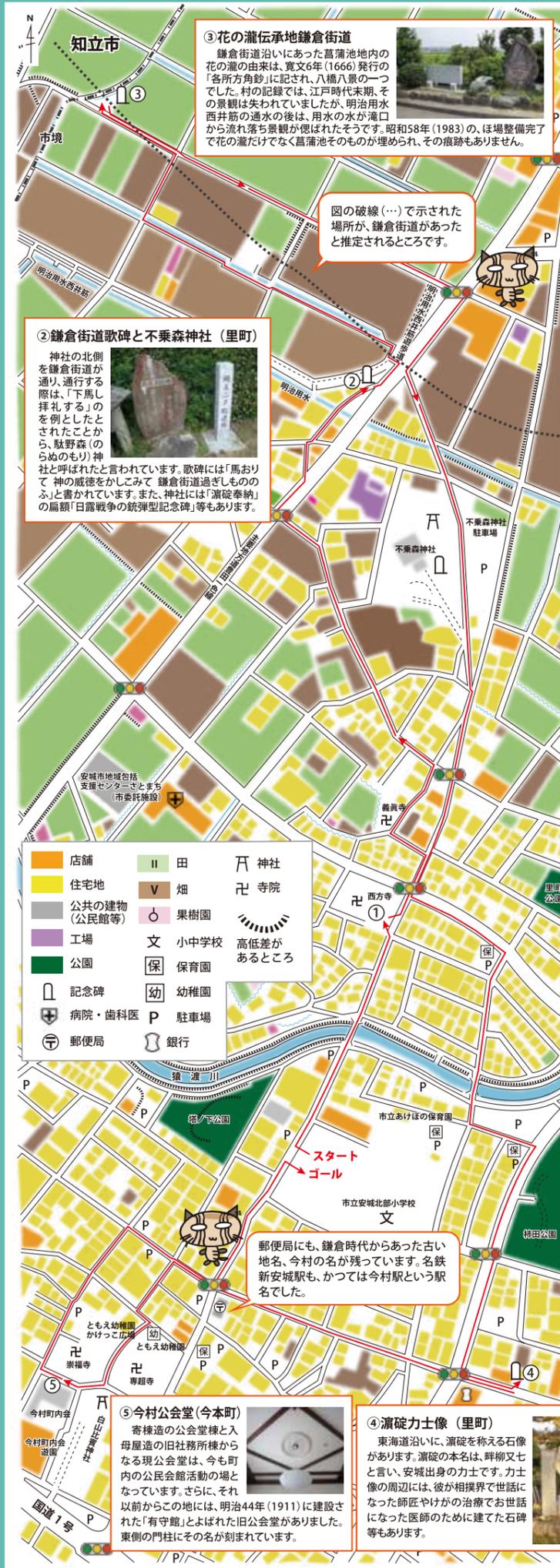
5/19 ⑩、6/22 ⑩

10:00~15:00

飲食や手づくりクラフトの店舗ブースが
集合します。

5/19 ⑩

常設展示無料開館デー 国際博物館の日(5月18日)にちなみ常設展が無料となります。



今回の歴史散策コースは安城の北部地区です。
安城北部小から北上するとすぐ西方寺(①)があります。西方寺は浄土真宗の寺で寛文三年(六六三)開基です。また、浄土真宗との関連でいけば地図には載っていませんが、西方寺の北東の地に慈光寺遺跡の碑があります。慈光寺は、現在の岡崎市下青野町にある浄土真宗本願寺派の三河七か寺の一つに

数えられる寺院でした。しかし、三河一帯で徳川家康に抵抗して、この地を追放されたので、里村の人々が慈光寺の僧侶を招いたのです。家康の赦免後、慈光寺は元の地に戻りますが、里村の人々は道場として残しました。
西方寺から北上し不乗森神社の西側の道を歩き、鎌倉街道歌碑(②)の場所に立ち寄ります。さらに、北西に進み、知立市との市境にある「花の瀧伝承地鎌倉街道跡」(③)の碑を目指します。鎌倉街道とは、近世東海道と区別するために用いられる言葉で、古代の官

道をもとに源頼朝が開いた鎌倉幕府と京都を結ぶ幹線道路です。市域では、八橋(知立市)から西矢作(岡崎市)に向かう間に里村から山崎町に至る道があったとされていますが、ほ場整備等で風景は一変し、街道跡の確認は難しくなっています。
「東海道」を目指し南へ
今度は、不乗森神社の東側を通り柿田公園方面を南進します。「今村」という旧地名を支店名にした銀行がある交差点で、東海道に交わります。家康

は東海道に宿駅を定め、街道に二里塚を設置し、道沿いに松を植えさせ整備しました。現在、尾崎町に二里塚跡の石碑があり、市域各所に計二〇〇本以上の松が保護されています。
交差点すぐ東に「濱碓力士像」等各種の石碑(④)があります。これは、明治時代に活躍したこの地出身の力士、濱碓の功績を称えるものです。彼は、けがのため早くに引退をしますが、後に薬劑師として、また、地方の相撲興行や大相撲の地方巡業の世話方として活躍します。今、御幸本町にある山口旭

薬局は、彼に関係するのでマイカリの名を冠しています。東海道を西進すると、安城北部小学校の前身となる今村学校があった専専寺、歴史の古い白山比売神社、崇福寺や、今村公会堂(⑤)など見どころがたくさんあります。特に昭和四年(一九二九)完成の今村公会堂は、天井・照明が特徴的で、昭和初期の雰囲気を感じさせる貴重な近代建造物です。
文責・片岡 晃(安城市歴史博物館館長)

安城歴史散策 風を感じて歴史を歩く18 番外編②